

西表石垣国立公園の星空を守る取り組み

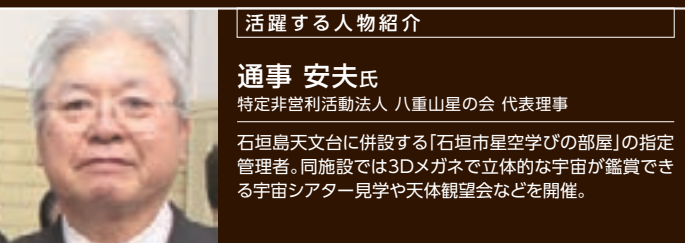
石垣市と竹富町にまたがる国立公園の範囲内が、2018年に星空保護区に認定されました。この地域では、一等星21個のすべてと、全88個ある星座のうち84星座を見ることができ、12月頃から6月頃までの約半年間は、南十字星も見ることができます。竹富町は、ユネスコの世界自然遺産に登録された西表島を中心に、町内全域が国立公園に指定されています。

石垣市は、竹富町の状況とは異なり、北西部の海浜や山林を中心に指定されています。沖縄県内最高峰の於茂登岳(526m)の山頂付近など、特別保護区や第1種特別地域に指定された豊かな自然が残されています。また、竹富町では暗い夜空と美しい自然を守るため、町内の街灯に光が上空に漏れない加工を施すなど改修を進めています。

西表石垣国立公園の星空スポット・コンテンツ

石垣市と竹富町の星空保護区は、先に国立公園の指定があり、その範囲がパーク認定されました。そのため、もともと住民たちが利用する場所と守るべき場所を分けていた先人たちの暮らしが評価され、追認される形で星空保護区に認定されました。

●**玉取崎展望台**：平久保半島に位置する展望台です。エメラルドグリーンの海を一望できるパノラマビューはまさに絶景。夜になると星空スポットとしても有名です。



活躍する人物紹介
通事 安夫氏
特定非営利活動法人 八重山星の会 代表理事
石垣島天文台に併設する「石垣市星空学びの部屋」の指定管理者。同施設では3Dメガネで立体的な宇宙が鑑賞できる宇宙シアター見学や天体観望会などを開催。

活躍する人物紹介
友利 恵子氏
うたがへ-石垣島 星空ガイド(一社)星空H.O/八重山地域振興会 代表理事
石垣島で星空ツアーを主催。また地域との協力を図り、夜の自然保護及び星空資源の活用を目的とする活動を行う。

「日本最南端の自然文化都市」石垣市 「日本最南端の大自然と文化の街」竹富町

沖縄県の南端、八重山諸島に位置する石垣市は、石垣島と尖閣諸島からなります。石垣市の主島である石垣島(222.24km²)は沖縄本島、西表島に次いで、県内で3番目に大きな島です。市内には、空港や港湾が整備され、竹富町の島々へ渡るのも石垣島を経由します。市街地は人口が集中し、建物も密集していますが、それでも天気の良い日には島の至るところで星空を観望することができます。竹富町は、沖縄本島から南西に450キロメートルの八重山諸島、石垣島の南西に点在する大小の島々からなります。沖縄県で2番目に大きい西表島、日本最南端の有人島波照間島・竹富島・小浜島・黒島・鳩間島・新城島・加屋真島など、東シナ海と太平洋に翡翠玉のようにちらばっています。

「天文王国おかやま」を代表する星空の聖地 アジア初の ダークスカイ・コミュニティに認定!

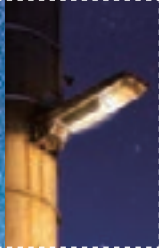
岡山県の西南部、広島県との県境に位置する井原市美星町。その名の通り美しい星空を観望できる町として、天文ファンには広く知られています。標高300m~500mの吉備高原上に位置しており、なだらかな丘陵と豊かな自然に囲まれ、高原地域ならではの新鮮な野菜や果物など特産品が豊富に揃っています。美星町という名は、町内を流れる美山川と星田川に由来しているといわれており、先人から受け継いだ自然や歴史・文化を守り育てようという郷土愛に満ちあふれた思いが込められています。2021年11月には星空を守る取り組みが評価され、アジア初となる「ダークスカイ・コミュニティ」に認定されました。

井原市美星町の星空を守る取り組み

美星町は、SDGsが叫ばれる遥か前の1989年11月に全国に先駆けて光害防止条例を制定し、地域が丸となって美しい星空を守る取り組みを進めてきました。条例制定から30年が経過する中で、地域の光害防止意識の希薄化や、屋外照明の増加、上方への光漏れが懸念され始めました。井原市と美星町観光協会はこのまちの環境を将来にわたり維持していくために、「星空保護区」の認定取得を目指すことを決め、認定基準に合わせた条例改正や屋外照明の交換を実施しました。認定後も小中学校向けの学習や住民への啓発活動などに

取り組んでおり、今後も他の模範となる地域として、光害対策の普及啓発と美星町の美しい星空を守り育てていきます。

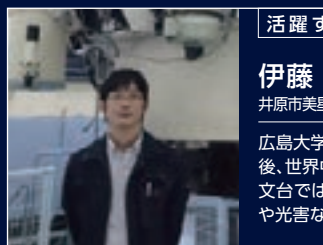
パナソニック社との屋外照明の共同開発
星空保護区に認定されるには、屋外照明の電圧を基準をクリアする必要があります。当時市販されていた照明器具では上方への光漏れを完全に防ぐことができませんでした。そのため、同社に基準に見合う照明器具の開発を依頼。スピード開発へとつながり、ダークスカイ・インターナショナルから国内初の認定を受けるに至りました。



井原市美星町の星空スポット・コンテンツ

づく星空文化や星空に親しむ方法を伝える「星の郷☆美星マイスター(星空ガイド)」が活躍するツアーなどを実施しています。

●**美星天文台**：国内有数の公開天文台で、スタッフの丁寧な解説により誰でも気軽に口径101cm望遠鏡で星を見ることができます。併設の美星スペースガードセンター展示館では、日本の宇宙開発やスペースデブリ観測について学ぶことができます。



●星空観光ツアー：星空観望と美星の食材を使ったフルコース料理を味わう「星降るレストラン」ツアーをはじめ、地元根

活躍する人物紹介
伊藤 亮介氏
井原市美星天文台 技師 / 広島大学宇宙科学センター 客員准教授
広島大学で宇宙物理学を専攻し、博士(理学)を取得。以後、世界中の望遠鏡で観測を行ってきた。現在の美星天文台では、星空案内はもちろんのこと、ブラックホールや光害などの研究観測も行っている。



ここは、星降る東京の島。 都会の灯りから離れて、 星灯りに包まれてみませんか。

都会の夜の光は、あなたを応援してくれます。建ち並ぶビルやマンションの灯りは、夜遅くまでがんばるあなたを照らしてくれています。でもちょっと疲れたときは、人工の光から離れて、星灯りに包まれてみませんか?ここは、都心から南へ約180kmはなれた、伊豆諸島の真ん中あたりに位置する「神津島」。都会の光がとどかない、暗い夜空が広がる場所です。そこは、美しい星空を守る「星空保護区」に、東京都で初めて認定されました。夜になり、島全体が暗闇に覆われると、天然のプラネタリアムに様変わり。真っ暗闇の中、海風を感じ、満天の星に包まれてみませんか。



国内4番目の星空保護区認定地 アーバン・ナйтスカイプレイス カテゴリーではアジア初!

福井県大野市は、霊峰白山の支脈に囲まれ、緑豊かな自然とおいしい水や食に恵まれた街です。織田信長の家臣である金森長近は、400年以上前に、大野盆地にある標高249メートルの亀山に大野城を建設し、そのふもとに碁盤目状の城下町をつくりました。今でもそのまち並みはかつての城下町としての風情を色濃く残しています。秋から冬にかけて大野盆地が雲海に包まれた亀山だけがぼっかりと雲に浮かんで見える時、「天空の城 越前大野城」が現れます。また、大野市は1年を通して見上げれば美しい星空が広がっており、市街地からでも天の川をはっきり見ることが出来ます。令和5年8月、大野市南六呂師エリアが国内で4番目となる星空保護区に認定され、アーバン・ナйтスカイプレイスではアジア初となりました。

神津島の星空を守る取り組み

神津島村では、2017年より、NPO法人神津島観光協会による「まるごとプラネタリアム」という事業を展開し、その一環として「星空ガイド」の養成と、来島者向けの「星空観賞会」を実施して、星空を観光に活用してきました。この取り組みなどをきっかけに、「美しい神津島の星空を子や孫の代まで残すこと」を目的とし、東京都の宝島事業のサポートを受けながら、星空保

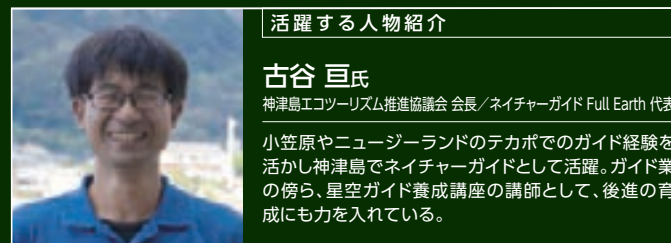
護区認定へ向け取り組みことになりました。2019年12月に「神津島星空公園条例」及び「神津島村の美しい星空を守る光害(ひかりかい)防止条例」を制定。2020年1月より施行しました。この条例をもとに、地域住民への啓発活動や、動植物の保護、省エネ型街灯化によるCO₂削減などの環境保護に取り組んでいます。

神津島の星空スポット・コンテンツ

●**よたね広場**：集落から近く、歩いて行ける星空観賞スポットです。公園内には星空保護区認定を記念したオブジェや12星座をモチーフにしたベンチが設置されています。*ベンチは島の各所に12台設置。
●**三浦湾展望台**：南の水平線が望めるので季節の星空観察に最適です。真冬には、水平線ぎりぎりに南天の星「カノープス」が姿を現します。
●**ありま展望台**：前浜と天上山が眺望できる絶景スポットです。高さ10mほどの白い「ジュリアの十字架」は、満天の星や月明りを背景に最高の撮影スポットです。



●**赤崎遊歩道**：昼は大賑わいの海水浴場が、夜には絶好の星空スポットになります。木製遊歩道と星空のコントラストは写真撮影にもおすすめです。
●**星空観賞会**：島民ガイドの解説を聞きながら見上げる星空観賞は、まさに天然のプラネタリアムに在りよう。地元の話も聞けるのも醍醐味のひとつです。



活躍する人物紹介
古谷 亘氏
神津島エコツーリズム推進協議会 会長 / ナイチャーガイド Full Earth 代表
小笠原やニュージーランドのテカボでのガイド経験を活かし神津島でナイチャーガイドとして活躍。ガイド業の傍ら、星空ガイド養成講座の講師として、後進の育成にも力を入れている。

大野市南六呂師の星空を守る取り組み

大野市は、環境省が実施する全国星空継続観察で2004年、2005年と2年連続で、日本一美しい星空に選ばれています。この星空を未来の子もたちも見続けられるようにという思いで、現在取り組んでいるのが光害対策です。大野市は、星空保護区認定を目指し、南六呂師エリアの区が管理する防犯灯、市や県が所有する施設の屋外照明を光害に対応したもの

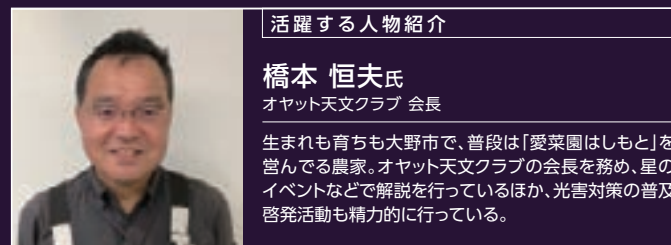
にすべて交換しました。また、光害という公害を知ってもらうため、市内の小学校や、公民館などで出前講座を行うなど、普及・啓発活動も行っています。さらに、毎年、7月7日の七夕の日から約1ヶ月間ライトダウンデーと称して、明かりを消して夜空を楽しむ取り組みを民間企業や市民などの協力を得ながら実施しています。

大野市南六呂師の星空スポット・コンテンツ

星空保護区認定エリアである南六呂師エリアの星空は、一年中星空を楽しむことができます。とくに空気の澄んだ冬は、見上げると、満天の星が広がり、宇宙の神秘を感じるくらい幻想的な眺めです。また、同エリアにある福井県自然保護センターには北陸最大級である口径80cmの望遠鏡やプラネタリアム



があり、天体の魅力を身近に感じることができます。さらに、ミルク工房奥越前では、ハンモックに揺られながら星空観望ができる星空ハンモックというイベントも毎週末開催しています(春と秋は焚



活躍する人物紹介
橋本 恒夫氏
オヤット天文クラブ 会長
生まれも育ちも大野市で、昔は「愛菜園はしもと」を営んでる農家。オヤット天文クラブの会長を務め、星のイベントなどで解説を行っているほか、光害対策の普及啓発活動も積極的にしている。